

(報告) ユーザー理解活動の取組状況

2018年9月21日

公益財団法人自動車リサイクル促進センター

《目次》

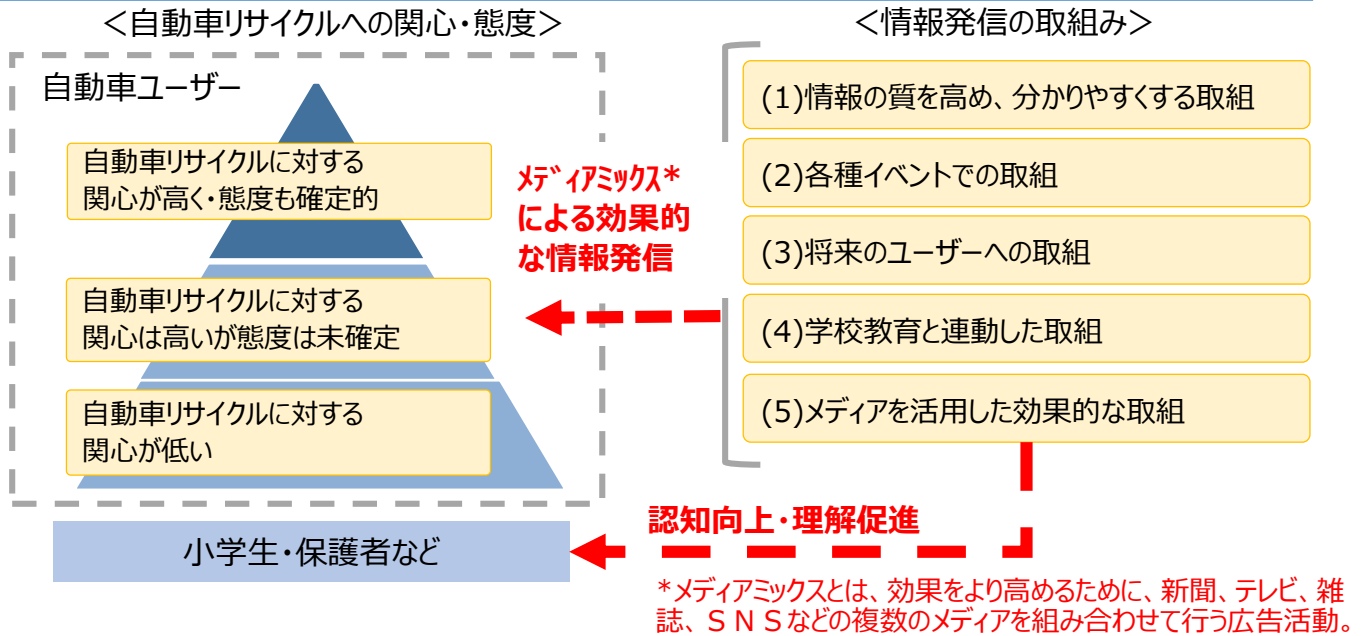
1. 2018年度ユーザー理解活動の計画	・・・	P2
2. 情報の質を高める取組	・・・	P3
3. インターネットメディアでの露出を高める取組	・・・	P4
4. 全国環境イベントでの取組状況	・・・	P5
5. 小学生の学校教育と連動した取組	・・・	P7
6. ユーザー理解活動事業費の執行状況(第1Q)	・・・	P10

1. 2018年度ユーザー理解活動の計画

ユーザーを始めとした自動車リサイクルの関係者のニーズを把握しながら、新たな切り口により情報発信・共有の高度化を図ることとしている。

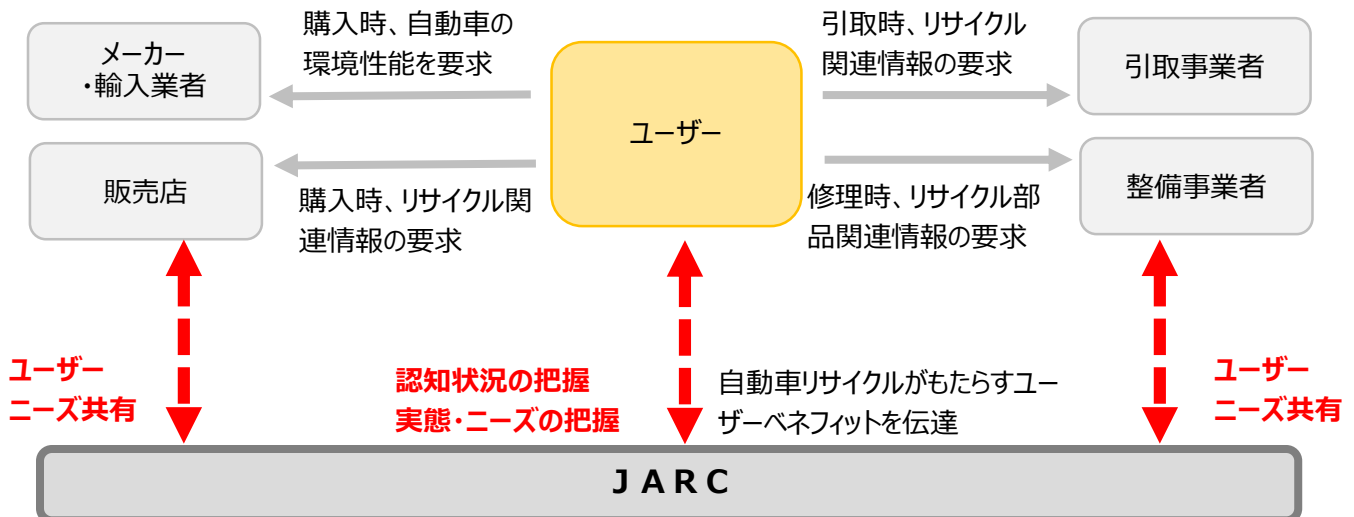
(1) 情報発信の取組

ユーザーにとって利便性が高く、コスト効率が良い手法を用いて、ユーザーに質の高い情報を提供する。そして、ユーザーとのコミュニケーション回数を増やし、効果的にメディアを活用しながら、“点”での取組を“面”への取組へと活動の幅を広げていく。



(2) 情報収集の取組

分かりやすい情報へと広報コンテンツの質を高め、ユーザーに対して効果的に情報を届けられるように、ユーザーの自動車リサイクルについての認知状況や自動車リサイクルの関係者のニーズを把握する。



2. 情報の質を高める取組

JARCホームページにて、広報映像やリサイクル博士のキャラクターなど活用し、タイムリーな情報発信に取り組んでいる。

公益財団法人
自動車リサイクル促進センター
Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC

自動車リサイクルの紹介 二輪車リサイクルの紹介 データ・会議資料 本財団について お問い合わせ

平成30年7月豪雨により被害を受けた皆さまへ

平成30年7月豪雨により被害を受けた皆さまに、心からお見舞い申し上げます。
当該災害によって、広範囲にわたり甚大な被害が生じており、これに伴い多数の使用済自動車が発生しているところです。
本財団は、自動車リサイクルの関係者と連携を図りながら、被災した使用済自動車の迅速かつ適正な処理に協力してまいります。

クリック



平成30年7月豪雨に関して必要とされる情報を取りまとめた掲示

- ・被災車両に関するよくある質問
- ・被災車両を扱う事業者の皆さま
- ・各省庁等からの連絡事項

お知らせ

> お知らせの一覧へ

博士の日記

> 博士の日記を読む

2018.08.08 お知らせ
小学生記者による自動車リサイクル工場取材の様子が小学生新聞に掲載（第3回目）

2018.07.27 お知らせ
平成30年7月豪雨に関するお知らせ（被災車両に関する情報）

2018.07.26 お知らせ
小学生記者による自動車リサイクル工場取材の様子を小学生新聞に掲載（第2回目）

2018.07.26 ニュースリリース
「体験と学びの環境博-信州環境フェア2018-」に出展

2018.07.20 ニュースリリース
「自動車リサイクルデータBook 2017」公表のお知らせ



2018.08.08
8月8日、自動車リサイクルの最新情報を小学生の視点で学んでいただくため、東京トヨペット株式会社様（東京都港区）の協力を得て、自動車販売店の見学会を開きました。



2018.08.08
8月8日、小学生記者による自動車リサイクル工場取材の様子を小学生新聞に掲載されました。（第3回目）



2018.07.30
7月30日、大分県にて自治体向け被災自動車への対応に関する研修を開催しました。

JARC取組



大分県にて自治体向け被災自動車への対応に関する研修を開催し、県内市町村担当者30名が出席。南海トラフ巨大地震による津波被害を想定した被災自動車への対応に関する調査体制の構築や仮置き場の確保等の演習を実施。

動画で知る
自動車リサイクル

自動車リサイクルシステム
ホームページ

自動車リサイクル
データBook

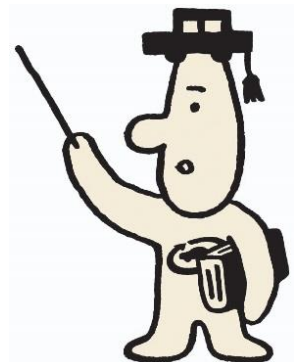
小学生
「クルマのリサイクル」
作品コンクール

クリック

自動車リサイクル
データBook 2017

自動車リサイクルデータBook2007を公表。
過去10年間に自動車リサイクルシステムに蓄積されたデータ及び関係団体等有するデータを基に、自動車リサイクルを取り巻く状況をまとめた。

（主な追加資料）
ハイブリッド車（HV）の中古車輸出状況
電気自動車（EV）の預託状況、使用済自動車引取状況、中古車輸出状況
仕向地別の中古車輸出状況



3. インターネットメディアでの露出を高める取組

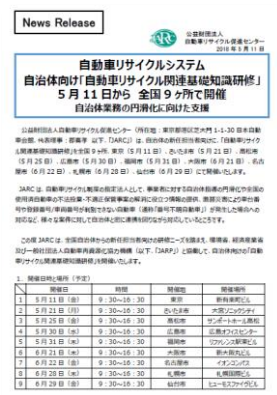
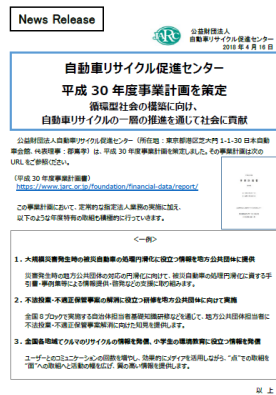
インターネットメディアでの自動車リサイクルに関する情報の露出を高めるために、2018年4月から6月末までにニュースリリース配信を6件行った。その結果、インターネットメディアに361件記事が掲載された。なお、この掲載実績を広告換算すると約9.5千万円となる。

(1) リリース情報と広告換算(参考値)

	配信日	リリース情報	掲載数(件)	広告換算*(万円)
1	4/3	第1回「クルマのリサイクル」作品コンクール受賞者の表彰式を開催	55	1,481
2	4/16	平成30年度事業計画を策定	67	1,753
3	5/15	自治体向け「自動車リサイクル関連基礎知識研修」5月11日から全国9ヶ所で開催	55	1,506
4	5/23	「地球環境イベントかながわエコ10フェスタ2018」に出展	66	1,629
5	6/20	「環境広場さっぽろ2018」に出展	61	1,587
6	6/28	理事長交代のお知らせ	57	1,526
合計			361	9,482

*メディアに記事掲載された際の露出効果を、同じ枠を広告として購入した場合の広告費に換算したもの

リリース情報例



(2) 掲載メディア例

毎日新聞、朝日新聞、四国新聞、京都新聞、奈良新聞、山形新聞、福井新聞、沖縄タイムスプラス、紀伊民報、千葉日報、宮崎日日新聞、新潟日報、茨城新聞、徳島新聞、福島民友、紀伊民報、山梨日日新聞、河北新報、上毛新聞、秋田魁新報、下野新聞、週刊女性PRIME、AFP BBNews、楽天NEWS、Google ニュース、Impress Watch Headline、excite ニュース、J-CAST ニュース、CNET Japan、

4. 全国環境イベントでの取組状況

2018年度は、昨年度の8ヶ所から13ヶ所へと各地域の環境イベントの出展回数を増やし、全国をキャラバンしながら自動車リサイクルの取組についての理解活動を行っている。また、出展に際しては、地域メディアや自治体との情報共有の取組を行っている。

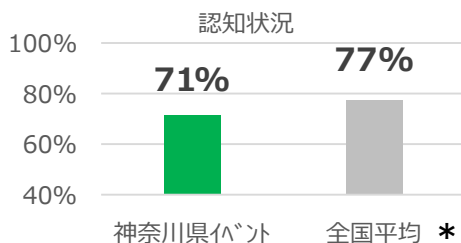
(1) 環境イベントへの出展計画

	開催地	名称	予定月	規模	MAP
①	神奈川県	かながわE10フェア	5月	14万人	
②	北海道	環境広場さっぽろ	6月	3万人	
③	長野県	信州環境フェア	7月	1万人	
④	愛媛県	まつやま環境フェア	8月	0.5万人	
⑤	石川県	いしかわ環境フェア	8月	3万人	
⑥	秋田県	あきたE10&リサイクルフェスティバル	9月	3万人	
⑦	宮城県	E10フェア仙台	9月	1万人	
⑧	愛知県	環境デーなごや	9月	15万人	
⑨	福岡県	北九州E10ライブステージ	10月	15万人	
⑩	沖縄県	県民環境フェア	10月	0.5万人	
⑪	島根県	松江環境フェスティバル	11月	1万人	
⑫	京都府	京都環境フェスティバル	12月	3万人	
⑬	東京都	E10	12月	16万人	

(2) 取組状況

- 開催日：5/26～27日(天気:晴)
- 場所：神奈川県横浜市
- 名称：かながわE10フェア2018
- 来場者数：約14万人
- アンケート回収数：1,284件
内自動車ユーザー：741件(58%)
- 自動車リサイクル認知状況：71%
全国平均77%*と比べて6ポイントの差があった。(※インターネット調査)

①



来場者との交流



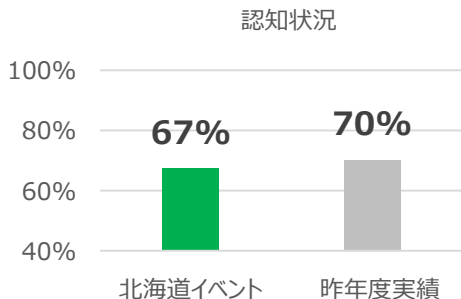
来場者との交流

- 日程：6月23日、24日（天気：曇）
- 会場：札幌ドーム（札幌市）
- 来場者：3万人
- アンケート回収数：1,003件
内自動車1-ガー：713件(71%)
- 自動車リサイクル認知状況：67%
昨年度実績70%と比べて3ポイントの差があった。

②



来場者との交流



- 開催日：7/28～29日(天気：雨)
- 場所：長野県長野市
- 名称：信州環境フェア2018
- 来場者数：約1万人
- アンケート回収数：967件
内自動車1-ガー：788件(82%)
- 自動車リサイクル認知状況：72%
全国平均77%*と比べて5ポイントの差があった。(*インターネット調査)

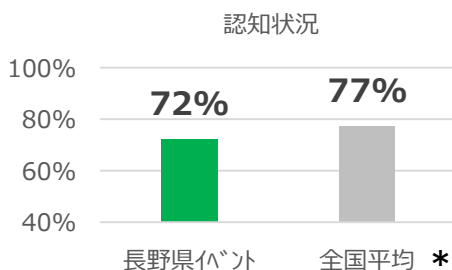
③



体験学習
マラカス作り



来場者との交流



提供：SBC信越放送

8/18(土)夕方
エコロジー最前線
(SBC信越放送)
の報道番組で取り上
げられた。



5. 小学生の学校教育と連動した取組

日本自動車工業会を始めとした自動車リサイクルの関係者と共に、小学生に向けた体験学習の場を提供し、小学生やその保護者の認知向上と理解促進に取り組んでいる。そして、この取組で得られたコンテンツを活用して、地域メディアや自治体などを通じて、地域住民への情報拡散に取り組んでいる。

(1) 背景

小学5年の社会科で学ぶ自動車リサイクルは、日本の基幹産業の“自動車”の中で紹介されている。情報の受け手の小学生自らが、循環型社会に向けた自動車リサイクルの取組を正しく理解し、興味を持ってもらい、日本の産業や環境保全などに現状や将来について考えるための基礎情報の提供が必要である。

(2) ねらい

“子ども記者”が取材者となり、小学生の目線で自動車リサイクルの取組をわかりやすく伝えることにより、次の効果を期待する。

- 小学生とその保護者、学校の先生の認知向上と理解の促進。
- 地域住民、地域自治体、地域メディアなどの読者への情報拡散。
- 関係する事業者間でのベストプラクティスの共有。

(3) 実施概要（以下①～③の取組を実施）

①小学生新聞「子ども記者」による現場取材を実施：（5月～9月）

掲載月	取材内容	協力団体
6月	リサイクル部品の利用促進に向けた取組	自動車リサイクル部品協議会
7月	解体事業者の取組	自動車破碎残さリサイクル促進チーム（ART）
8月	破碎事業者の取組	自動車破碎残さリサイクル促進チーム（ART）
8月	販売事業者(引取業者)の取組	日本自動車販売協会連合会
9月	自動車メーカーの取組	日本自動車工業会

* 現場取材により制作したコンテンツの利用方法

毎日小学生新聞に掲載、“Newsが分る”冊子に掲載、環境イベントで来場者に提供、全国教育委員会に提供、学校教科書制作会社へ提供、全国経済産業局・環境事務所へ提供、関係団体を通じて関連事業者へ提供、等々

②全国小学校に壁新聞にした取材記事の内容を配付：（10月）

③第2回クルマのリサイクル作品コンクールを実施：（10月～3月）

【第1回】リサイクル部品の利用促進に向けた取組（6/18掲載）

2018年（平成30年）6月18日（月）

毎日小学生新聞

毎日小学生新聞

毎小こども記者 自動車リサイクルの秘密を探る! ①部品編

2018年（平成30年）6月18日（月）



毎小こども記者の目

各小記者が、現場で取材した様子や、リサイクルの秘密を探る様子を紹介しています。

● 部品編

● 解体スタート

● 外す

● 品質チェック

● 再利用の現場

部品を取り出す作業を取材

高い技術が再利用を可能に

自動車リサイクルの現場

暗和メタル精錬工場

解体スタート

外す

品質チェック

再利用の現場

拡大した記事はこちら <https://www.jarc.or.jp/news/4517/>

【第2回】解体事業者の取組（7/26掲載）

2018年（平成30年）7月26日（木）

毎日小学生新聞

毎日小学生新聞

毎小こども記者 自動車リサイクルの秘密を探る! ②解体編

2018年（平成30年）7月26日（木）



毎小こども記者の目

各小記者が、現場で取材した様子や、リサイクルの秘密を探る様子を紹介しています。

● 部品編

● 解体スタート

● 外す

● 品質チェック

● 再利用の現場

フロントとエアバッグを取り出す作業を取材

温暖化も防止

ガス逃さない大事な一手間

解体スタート

外す

品質チェック

再利用の現場

拡大した記事はこちら <https://www.jarc.or.jp/news/4522/>

【第3回】破碎事業者の取組（8/8掲載）

7 2019年（平成30年）8月8日（水） 朝日小学生新聞 朝日小学生新聞 朝日小学生新聞 朝日小学生新聞 朝日小学生新聞 2019年（平成30年）8月8日（水） 6

自動車リサイクルの流れ

①自動車廃止の申し込み
②解体・解体検査
③廃棄物の分別
④資源の再利用
⑤再利用

毎小こども記者 自動車リサイクルの秘密を探る! ③破碎編

まなぼう! JARC.or.jp

自動車リサイクルの秘密を探る! ③破碎編

細かく砕いて種類別に回収

再利用 海外でも

再生された資源の活用

シュレッダープラントを取材

茨城県 天山商事

廃車を再び資源に

自動車リサイクルの現場

- 分別
- 破碎
- シュレッダー
- 分別
- 分別
- 分別

分別

シュレッダープラントで細かく砕いた資源を種類別に回収する。分別された資源は、再利用される。

破碎

自動車リサイクルの現場で、車を細かく砕く。破碎された資源は、再利用される。

分別

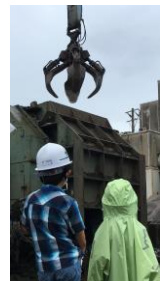
破碎された資源を種類別に回収する。分別された資源は、再利用される。

分別

破碎された資源を種類別に回収する。分別された資源は、再利用される。

拡大した記事はこちら <https://www.jarc.or.jp/news/4663/>

<小学生の見学の様子>



有限会社昭和メタル様での（埼玉県）での見学の様子

大山商事株式会社様（大分県）での見学の様子

6. ユーザー理解活動事業費の執行状況（第1Q）

2018年度4月から6月末（第1Q）までのユーザー理解活動に要した費用は、1,015万円（予算執行率：3.9%）であった。
 なお、この理解活動費は、特預金と繰越金から負担される。

＜ユーザー理解活動に要した費用の内訳＞

（単位：万円）

#	取組の方向性	施策例	年度 計画額 ①	第1Q 決算額 ②	執行率 ②/①
1	全国万遍なく、環境関連イベントに出展し、自動車リサイクルの取組・成果の認知向上の機会を創出する	<ul style="list-style-type: none"> ●全国環境イベントでの情報提供の取組 ●地域メディアと連携した情報拡散の取組 	2,000	258	12.9%
2	若年層に向けた情報発信を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ●小学生の学校教育と連動した取組 ●自治体と連携した情報拡散の取組 ●運転免許教習生に対する取組 	6,100	362	5.9%
3	各種メディアを活用して露出を高める取組を行う	●メディアミックスによる効果的な取組	13,000	0	0.0%
		<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースリリースの積極的配信 ●その他のパブリシティ活動 	0	0	-
4	身近なところから、ユーザー視点で分かりやすい情報へと改善を行う	<ul style="list-style-type: none"> ●ウェブページを活用した情報発信と改善 ●広報冊子を活用した情報発信と改善 ●広報ツール制作（チラシ・ポスター等） 	1,770	40	2.3%
5	自動車リサイクルの現状や実態の変化等を把握する	<ul style="list-style-type: none"> ●ユーザーの認知状況の把握 ●各種ユーザーニーズの把握 	330	76	23.0%
6	広報・PRの専門家を助言や支援を受けながら、質の高い情報を、効果的に発信する	<ul style="list-style-type: none"> ●効果的な取組の実務支援 ●リスク低減の観点での支援 ●情報発信の効果検証 他 	3,000	279	9.3%
合 計			26,200	1,015	3.9%

<https://www.jarc.or.jp/>